

小論文

次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。

ルールとは本来、集団生活の中で秩序を守るためのものであるべきで、個人を殺すものであってはなりません。ですが、日本社会では人を攻撃する道具のように使われることがあり、個人がルールにがんじがらめにされています。

慣習、モラル、エチケットなど、ルールにはさまざまなものがあります。最も権威があるルールとして思い浮かべるのは法律でしょう。国家権力によって強制され、改廃したり違反などをめぐる争いを解決したりする権限が誰にあるのか、明確に定められている。ただ、法律も長い時間をかけて培われた社会の慣習やモラルが下地になっており、数あるルールの中の一つにすぎないとも言えます。

日本の特徴は「法律未滿」のルールの拘束力が非常に強いことです。明文化されていないものも多く、そもそも誰が何のためにそのルールを作ったのか分からなかったり、強制力が一律ではなかったりするため、ルールの解釈や違反をめぐる争いが起きたり、恣意的に適用されたりするややこしさがあります。

例えば、コロナ禍で政府はマスク着用を義務付けてはいなかったのに、着けていない人を責める「マスク警察」が現れました。公共施設などでは、やらないで欲しいことを伝えるために「お控えください」といったあいまいな表現がよく使われます。それでもほとんどの人が従っている。不倫した有名人が、再起不能になるほどバッシングされるのは当たり前の光景になりました。要請やモラルが社会の同調圧力によって強い縛りとして広まり、時に法律以上に厳しいまなざしが向けられています。

厳しさの背景には、嫉妬と不公平感があると私は考えています。「自分は守っているのに」「自分は我慢しているのに」という思いが、逸脱者への攻撃という形で強い制裁になっている。SNSでは、実は少数の執拗なネットユーザーに起因するという説があるものの、「自分こそが正しい」とばかりに「ルールを守れ」という側の声があふれ、異論を差し挟めない状況に陥っています。

経済学者のアダム・スミスは、人間の中には「公平な観察者」が存在していると記しています。客観的に自己を観察し、「これをやったらどうなるか」を判断する。ルールを守らせるのは自分自身というのが理想です。でも今は、別の力が大きくなりすぎているように感じています。

住吉雅美「攻撃 嫉妬と不公平感から」、『オピニオン&フォーラム ルール「守れ」に縛られ 耕論』
朝日新聞（2024.9.11）から抜粋 承諾番号：25-3064

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

設問1. 本文の要旨を200字以内で要約しなさい。

設問2. 下線部の「厳しさの背景には、嫉妬と不公平感がある」という筆者の考えについて、あなたはどのように考えるか。600字以内で述べなさい。